

大阪 あちこち

●松原は今も昔も交通の要衝

—歴史が薫る街道筋—

市の北東部には阪神高速道路、阪和自動車道、近畿自動車道といった自動車専用道のジャンクションがあり、今も交通の要衝となっている松原市ですが、古くから、長尾街道、竹内街道、中高野街道、難波大道といった古道が通る古代交通の要衝でもありました。特に長尾街道や竹内街道は今から1400年ほど前の飛鳥時代に整備された、わが国最古の官道のひとつです。これらは大和にあった飛鳥の朝廷が中央と地方を結ぶ街道を敷き、中央集権の政治を確立させるために整備されたものと言われています。

中でも長尾街道は堺市の^{ほんぜい}反正天皇陵古墳の北端から始まり、松原市の中心を東西に横切って奈良県當麻（現：葛城市）に至る難波－河内－飛鳥を結ぶ当時の大動脈でした。そしてこの道は、今も多くの人々が行き来する大切な生活道路としての役割を担っています。この道を歩くと現代の松原の人々の生活の息吹が感じられるとともに、歴史の名残を今も随所にとどめていることがわかります。



長尾街道と刻まれた石碑

●松原の地名の由来となった丹比柴籬宮（たじひしばがきのみや） 伝承地

長尾街道を少し南に行っところにある丹比柴籬宮伝承地。ここは、5世紀半ばの古墳時代に反正天皇の宮が置かれたと伝わる場所です。『日本書紀』には第18代反正天皇がこの地に丹比柴籬宮を置き、わが国の政治・経済・文化の中心となりにぎわっていたと



柴籬宮の石碑



記されています。その後、丹比柴籬宮の跡は「松生いし丹比の松原」と言われるようになり、松原の地名の由来はここから名付けられたと伝えられています。

●多くの人々が行き交った交差点 ^{あおんちや}阿保茶屋

松原市の玄関口である近鉄南大阪線河内松原駅のすぐ西側を通るのが中高野街道。その道を北に200mほど行くと、長尾街道との交差点である阿保茶屋に出ます。ここは昔より高野山詣りなどをする人が行き交い、交通の要所として旅人目当ての茶屋で賑わっていたことから今もその名残をとどめた名前と呼ばれています。



人々が行き交う阿保茶屋交差点

市内を通る街道筋周辺には、他にも本殿が大阪府指定有形文化財に指定されている布忍神社や、わが国で5番目に大きい前方後円墳である大塚山古墳など歴史が刻まれた史跡が点在しています。現在の交通の要衝ジャンクション、昔から人々の暮らしに深く根付いている街道周辺の歴史。今も昔も、交通の要衝として栄え、人々の想いが絶えることなく行き交う街、松原を是非一度歩かれてみてはいかがでしょうか。

▼お問い合わせ先▼

松原市総務部市政情報室

TEL 072-334-1550

FAX 072-334-7870

E-mail koho@city.matsubara.osaka.jp